

賛助会員訪問記

株式会社 マコメ研究所 訪問
ホームページ : <http://www.macome.co.jp/>

平成 27 年 11 月 30 日(月)13 時 20 分~15 時 30 分、株式会社 マコメ研究所（長野県上伊那郡箕輪町）を高野良紀総務理事、押木満雅事務局長および杉村比登美事務局職員の 3 名で訪問した。本社工場は、中央高速道路の高速バス停留所中央道箕輪から 5 分の工業団地の中にあった。箕輪は東京新宿より甲府、諏訪そして岡谷を通り 3 時間のバス旅で周囲の高山の頂きが積雪で白く見える伊那谷の入り口に位置する。

沖村文彦 社長、新井栄作 開発担当執行役に対応していただいた。新井氏よりマコメ研究所創設の話し、事業内容や製品などについての説明を受けた。マコメとは、**Machine Control & Measurement** の頭文字を取り **MaCoMe** とした。マコメ研究所は、1971 年に東京都大田区に創設されたが工場が手狭となりこの地に伊那工場を作り本社機能も移転した。また、マコメ研究所は本年夏に訪問したマグネスケール社から独立した会社であると説明され驚いた。マコメ研究所は可飽和コイルを用いた磁気検出技術を応用した高感度、高信頼の磁気検出素子の研究開発および製品製作を行っている。製品には、磁気検出スイッチや測長、位置検出器などがあり、応用としてレーシングバイクの速度計測器や地殻変動を測定する歪みセンサなどの製作も行っており非常に幅広い分野での磁気応用計測機器の製作を行っている。製品群の中に、工場内の自動搬送車を誘導する磁気ガイドテープと 8 チャンネルの磁気センサがあり、まるで 8 トラックの MT 装置と同じであると感じた。更に数多くの試作開発品をまとめたアプリケーション集を用いて数多くの製品を出荷していると説明された。会議室の背後に製品群の展示コーナーがあり、測定物とセンサ間の距離が大きく取付けられている様を見るとセンサ感度の高さ故に距離が確保できている事に改めて気付かされた。その後、工場見学に移った。工場は、大学の研究室を少し大きくした感触で、量産品を次々に製作している様には見えなかった。見学の途中でレーシングバイクの計測器製作をしている若手エンジニアに話を聞く機会があった。仕事に真摯に向きあい、より良い製品を作って行こうと言う姿勢が言動に滲み出ているのを感じた。

頂戴した社史「磁気一徹」には創設者植村三良氏の発明、ソニーでの発明や分社化、マグネスケール社分離独立さらに自由な研究開発環境を求めマコメ研究所設立などの経緯がこと細かく記されていた。また植村氏が東北大学電気通信研究所で永井健三教授の元で助教授を務めていた時、弊学会名誉会員の岩崎俊一先生が助手であったとの記述もあった。工場内で感じた自由で落ち着いた雰囲気や製品と真剣に取り組んでいる技術者の姿などの工場の雰囲気は、創設者植村氏の願いであった「多くの発明やアイデアを具現化する開発製造のみを行う」この思いが今でもこの工場の企業風土として根付いている事をこの社史を読むことにより納得する事が出来た。

また、アプリケーション集の厚さに、顧客のニーズに密着したモノづくりの姿勢、製品に対する自信・誇りを感じることができた。特別な教育は行っていないがひとり一人の社員があらゆることを任せ、それを遂行していくことで開発・製造の技術スキルアップまた継承させる方針であると伺い、このような社風が、のびのびと独自性のある製品を生み出す原点となっていると感じた。冬の太陽が高山に隠れようとする頃に帰路に就いた。

賛助会員訪問記



取材風景



磁気センサー



研究開発室



本社工場